

もうすぐ戦前の治安維持法が復活します。(1)

「治安維持法」は戦前、共産主義者のテロから社会を守るという名目の元に制定され、結局は戦争に反対する人々の弾圧に利用されました。そして、たくさんの人々が治安維持法違反の罪名で連行され、拷問を受けたり獄死したりしました。



もちろん今国会で制定されようとしている法律には「治安維持法」という名前は付けられていません。しかし、600種類以上の広範な犯罪に適用でき、しかも特徴的なことは犯罪が実際に行われなくても、複数の人で計画しただけで逮捕できるという、「治安維持法」以上に権力者にとって都合のよい法律になっています。

この法律の名前は **「共謀罪」** といいます。

えっ、「善良な一市民」である私には関係ないって？

戦前の「治安維持法」のことを思い出してみてください。この法律の趣旨も **「共謀罪」** と同様にテロから社会を守るということだったはずですが、結局それが戦争に反対する人々の弾圧に使われ、「善良な一市民」達も密告をおそれて物言えぬ社会となり、破滅の道へと突き進んでいったではないですか。

4月に一斉逮捕が行われた耐震強度偽装事件を見てもわかるとおり、別件逮捕（事件の核心とは関係のない比較的軽微な罪でまず逮捕してしまうこと）が平然と行われ、マスコミは以前のようにその問題点を批判しなくなっています。

それでも現行の法律では特殊な場合を除いて、犯罪に当たる行為を何もしてなければ、逮捕されることはありません。

ところが **「共謀罪」** では、私たちが犯罪に当たる行為を計画していたと判断されれば、逮捕することが可能なのです。そして重要なことはその判断をするのは私たちでも、マスコミでもなく、警察や検察だと言うことです。

もしあなたが時の政府やその役人や、さらにはそれらに連なる人々に好ましくない人物と思われてしまった場合（あなたが本当に悪いことをしているしていないにかかわらず）、彼らがあなたを逮捕するのがとてもたやすくなったわけです。



戦前と同じ道をこの国は今また歩もうとしています。